

第9回西区協議会  
事前配付資料

◎議事

(1)協議事項

第14号 浜松市デジタル・スマートシティ構想（案）のパブリック・コメント実施について

… 資料② - 1

第15号 浜松版 MaaS 構想（案）のパブリック・コメント実施について

… 資料② - 2



区 協 議 会

区 分	<input type="checkbox"/> 諮問事項 <input checked="" type="checkbox"/> 協議事項 <input type="checkbox"/> 報告事項				
件 名	浜松市デジタル・スマートシティ構想（案）の パブリック・コメント実施について				
事業の概要 (背景、経緯、 現状、課題等)	<p>○趣旨 本構想は、「デジタルファースト宣言」に基づき、都市づくりをデジタルファーストで進めるデジタル・スマートシティ政策の指針として策定し、官民共創で“デジタル・スマートシティ浜松”の実現を目指していくもの。</p> <p>○背景 ・本市は、令和元年10月に「デジタルファースト宣言」を行い、都市づくり、市民サービス、自治体運営の3分野を中心にデジタルの力を最大限に活かし、持続可能な都市づくりを推進している。 ・少子高齢化、インフラ老朽化、新型コロナウイルス感染症などの課題に直面する中で、まちづくりや都市経営に新たな視点や変革が求められている。</p> <p>※デジタル・スマートシティとは 「データや先端技術」を活かし、子どもや高齢者の見守りなど安全・安心といった「地域づくり」や新たなサービス創出などの「産業の活性化」に取り組む都市や地域。</p>				
対象の区協議会	全区協議会				
内 容	浜松市デジタル・スマートシティ構想（案）のパブリック・コメント実施について概要を説明するとともに、内容について協議するもの。  ○浜松市デジタル・スマートシティ構想（案）の構成（案） ※別添資料参照 I 構想策定の背景 II 構想策定の趣旨／構想の位置づけ III 将来像／目指す方向性（基本理念）／必要な視点／基本原則 IV 推進体制とエコシステム／ロードマップ V 第一期（2020年度～2024年度）における重点分野の設定 VI 用語の解説				
備 考 (答申・協議結果を得たい 時期、今後の予定など)	パブリック・コメント実施（案の公表、意見募集） 令和3年1月25日～2月24日 市の考え方公表時期 令和3年3月予定 実施時期または施行時期 令和3年4月1日予定				
担当課	デジタル・スマートシティ 推進事業本部	担当者	三岡 由莉	電話	457-2454



## 将来像

### ～ デジタルで“繋がる未来”を共創 ～

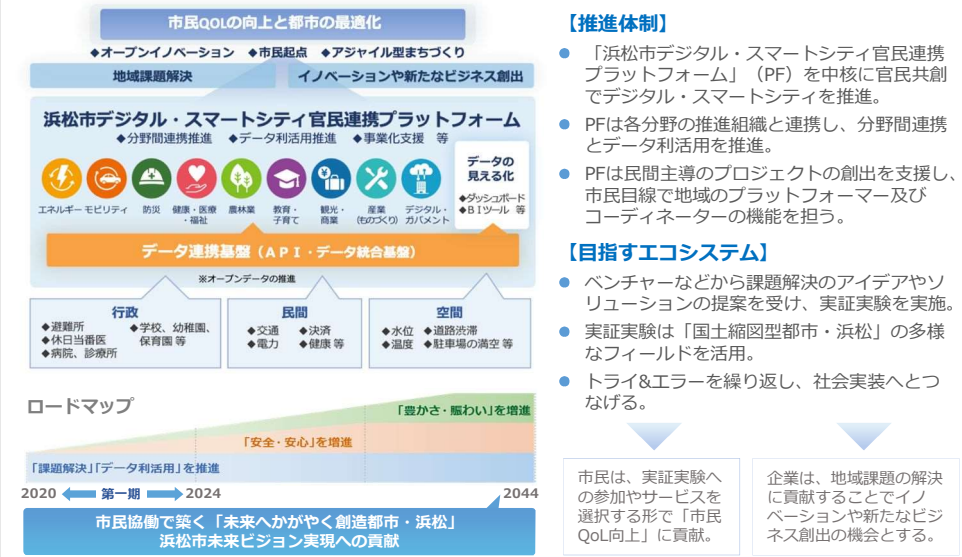
人口減少・少子高齢化やインフラ老朽化、コロナ禍の状況においてデジタルの力を最大限に活用し、「市民QoLの向上」と「都市の最適化」を目指し、デジタルで“繋がる未来”を官民で共創します。

### 目指す方向性（基本理念） 「市民QoLの向上」と「都市の最適化」



## 推進体制とエコシステム

官民共創によるまちづくりを進め、「地域課題の解決」と「イノベーションや新たなビジネスを創出」するエコシステム（好循環）を形成します。



## デジタルで“繋がる未来”の概観

デジタルの力を最大限に活用し、「課題解決型のアプローチ」と「未来に夢と希望を持つチャレンジ」を組み合わせることで、ヒト・モノ・コトを繋ぎ、“繋がる未来”を創造します。



遠隔医療やIoTを活用した見守りでどこでも安心して生活。AIがデータに基づきお薦めの食事や運動を紹介してくれて、いつまでも健康に生活。

高齢者や障がい者、外国人、女性、誰もがデジタル技術に支えられ、社会と繋がりが、それぞれの力を発揮。

デジタル活用で世界と音楽で繋がりが、デジタル・音楽・芸術が融合した新たな文化を浜松から発信。

世界の学校と繋がりがオンライン留学。AIが自分にあった学習メニューを推薦。年齢に関係なく、誰でも多様な学ぶ機会があり、いつでもチャレンジ可能。



ドローンやロボットの活用で省力化と生産性が向上。AIやビッグデータを駆使し、付加価値が向上した儲かる農業が実現。

どこにいてもドローンで好きなもの・サービスがいつでも届く。免許を返納してもライドシェアや自動運転で自由にどこへでも移動。

スマホ1台でどこでもいつでも簡単手続。必要な情報は必要な時に届き、困ったときは、24時間、AIコンシェルジュが対応。職員の対面相談も選べる、便利で安心な市役所。

センサーのデータやAI予測により危険を回避。被害を最小限に抑え、災害の状況もリアルタイムで可視化。大切な人や情報、支援に繋がりが安全・安心な社会を実現。

### デジタルで“繋がる未来”のキーワード

- 人と人が繋がる（リモートでの見守りや面会、相談、帰省等）
- 社会と繋がる（高齢者や障がい者、外国人、女性等の社会参加をサポート）
- 都市部と地方が繋がる（リモートワークや多拠点居住の促進）
- サービスが繋がる（遠隔教育、遠隔医療、遠隔鑑賞等）

## 第一期（2020年度～2024年度）における重点取組分野

2020年度から2024年度の5年間で第一期と位置づけ、①本市の強みを活かした取組、②ウィズコロナ、ポストコロナのニューノーマルや安全・安心への対応、③課題解決型アプローチによる持続可能で包摂的な社会の構築に向けた取組、④推進基盤の構築や強化に重点的に取り組めます。

### ① 浜松の強みを 唯一無二のものに

#### ウエルネス

- 「予防・健康都市浜松」実現に向けた官民連携
- 健康情報を活用した生活習慣病等の予防・改善
- 介護ロボット等の活用による介護従事者の負担軽減
- AI等を活用した健診（検診）の受診率向上

#### 音楽文化・ エンターテイメント

- デジタル技術を活用した文化事業の実施
- ニューノーマル時代のエンターテインメントの新たな楽しみ方の創出と普及
- インターネットを活用した音楽文化等の発信とリモートによる国際交流の推進

#### 産業（ものづくり・農林業）

- 国土縮型都市・浜松のフィールドを活用した新たなサービスやソリューションの創出
- サテライトオフィス等を活用したベンチャー企業等の誘致
- スマート農林業の推進
- 中小企業の生産性向上に向けたIT・IoT等の活用支援

#### 商業・観光

- デジタル・マーケティングの活用による情報発信
- 新しい生活様式に即した観光の活性化と賑わいの創出
- 関係人口の拡大や多拠点居住の促進
- デジタル活用による移住・定住・交流の促進
- キャッシュレスの推進
- デジタルを活用したインセンティブ付与による誘客や消費活性化の研究

### ② 浜松らしい ニューノーマル社会の実現を目指して

#### リモートワーク・ 多拠点居住

- 関係人口の拡大や多拠点居住の促進
- デジタル活用による移住・定住・交流の促進
- リモートワークやテレワークの推進
- テレワークパーク構想の推進
- 副業・兼業人材の活用促進

#### 見守り・ 災害対応

- IoT等を活用した高齢者や子どもの見守り推進
- 災害予測や災害状況の効果的な把握
- 災害関連情報の効果的な提供
- 避難所の効果的な3密対策

#### 教育・ 子育て

- GIGAスクール構想の実現に向けた教育環境整備
- オフライン授業とオンライン授業のハイブリッドによる持続可能な教育の推進
- ICT等を活用した子どもや子育て世代への効果的な情報提供や相談体制の構築

#### デジタル・ ガバメント

- 書面規制・押印・対面規制等の見直し
- 行政手続きのオンライン化やキャッシュレスの推進
- マイナンバーカードの取得促進とマイナンバーカードを活用した行政サービスの拡充
- 多様な伝達手段による情報の提供
- AIやICT等の活用による生産性の向上
- DX推進に向けた職員の人材育成

### 第一期

## デジタル・ スマートシティ 浜松 の基礎固め

### ③ デジタルの力で持続的・包摂的社會を構築

#### モビリティ

- モビリティとサービスの連携による持続可能なまちづくりの推進
- モビリティサービス推進コンソーシアムを中核とした官民連携によるプロジェクトの創出
- 医療MaaSの推進
- フードデリバリープラットフォームの推進
- テレワークパーク構想の推進

#### 社会参加促進

- AIやICT等の活用による障壁の除去
- バリアフリー情報等のオープンデータ化の促進
- 情報へのアクセシビリティの向上
- ICT技術やSNS等を活用した市民参加の促進
- シニア向けスマホ講座等の充実

#### インフラ

- ドローンやセンサー等の活用によるインフラの老朽化対策
- 点群データなどインフラ情報のデジタル化
- 都市のデジタル化推進におけるインフラの活用や高度化の検討

#### エネルギー・循環型社会

- 「浜松市域“RE100”」の実現に向けた推進
- スマートコミュニティ、スマートタウンのモデルの構築
- スマートプロジェクトの実現
- 新清掃工場及び新破砕処理センターをモデルとしたサーキュラーエコノミーの推進

### ④ 共創の基盤を構築し より強固なものに

#### 官民共創による 推進体制の強化

- 浜松市フェロー等外部人材の活用
- 官民共創によるプロジェクト創出に向けたアイデアソン等の開催
- 次代を担う若者世代の巻き込み
- 官民連携プラットフォームを活用した分野間の連携促進
- シビックテックとの連携や共創

#### データ連携基盤の整備や オープンデータの拡充

- データ流通のハブとなるデータ連携基盤の整備と利活用
- データ連携基盤の活用事例の創出（Ori-Projectの推進）
- オープンデータプラットフォーム（ODPF）の整備と利活用
- 点群データのオープンデータ化と利活用促進

#### 人材育成

- 次代を担う若者の育成
- データ利活用に関するセミナーやハッカソン等の開催
- シニア向けスマホ講座等の充実
- 人材育成におけるリモートやオンラインセミナー等の活用
- 人材育成における大学やCode for Japan等との連携

#### 通信基盤等の 整備や利活用促進

- 中山間地域等への光ファイバ網の整備支援
- 5Gアンテナ基地局の設置や利活用の促進
- 各種通信（高速・低速等）活用の事例の共有と横展開
- 活用事例の創出やニーズ喚起による各種通信インフラ整備の働きかけ

# 浜松市デジタル・スマートシティ構想（案）

Digital Smart City HAMAMATSU

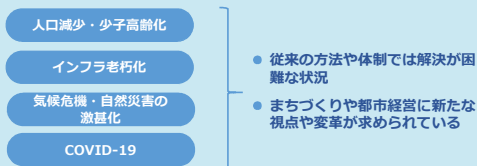


## I 構想策定の背景

1

Digital Smart City HAMAMATSU

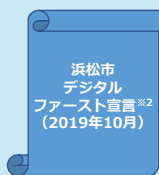
### 現状と課題



- 従来の方や体制では解決が困難な状況
- まちづくりや都市経営に新たな視点や変革が求められている

### デジタル活用による課題解決への期待の高まり

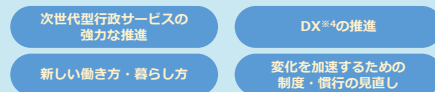
先端技術や様々なデータを活用し、官民連携で地域課題の解決や、よりよい暮らしの実現を目指す「デジタル・スマートシティ<sup>※1</sup>」への期待が国際的に高まっている。



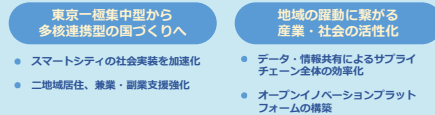
先端技術やデータなどデジタルの力を活かし、持続可能なまちづくりを行う「デジタル・スマートシティ」の取組を始動。

### 国の政策動向やまちづくりの潮流

「新たな日常」構築の原動力となるデジタル化への集中投資・実装とその環境整備  
デジタルニューディール<sup>※3</sup>

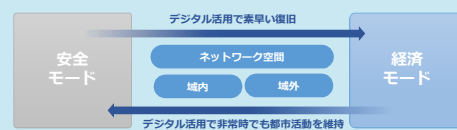


「新たな日常」が実現される地方創生  
多核連携型の国づくり、地域の活性化



(出所) 内閣府 経済財政運営と改革の基本方針2020

COVID-19/災害激甚化に対応する持続可能な社会  
デュアルモード社会<sup>※5</sup>の構築



## II 構想策定の趣旨／構想の位置づけ

2

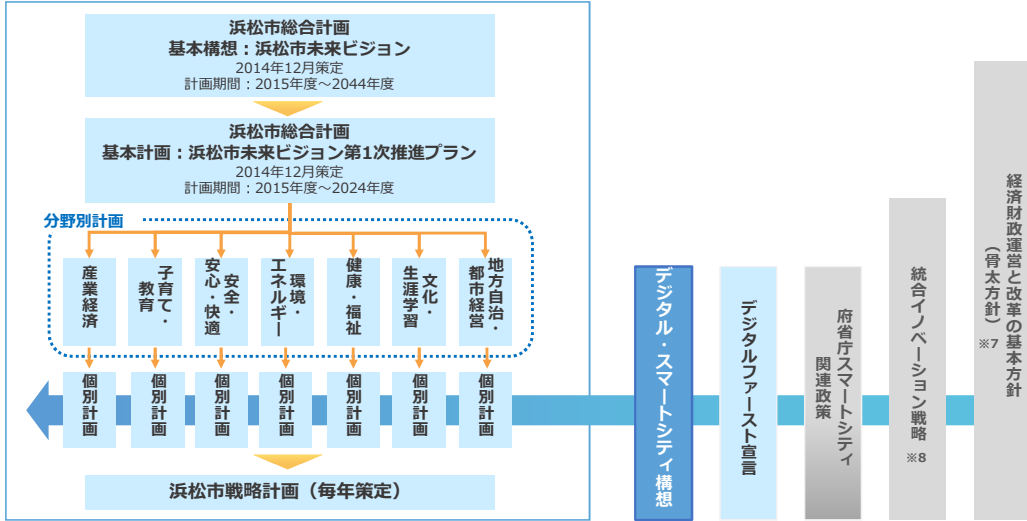
Digital Smart City HAMAMATSU

### ■ 構想策定の趣旨

「浜松市デジタルファースト宣言」に基づき、都市づくりをデジタルファーストで進めるデジタル・スマートシティ政策の指針として策定し、多くの方々と共有し、官民共創で“デジタル・スマートシティ浜松”の実現を目指します。

### ■ 構想の位置づけ

「浜松市デジタル・スマートシティ構想」は、本市の最上位計画である総合計画※6に基づく個別計画であるとともに、デジタル活用の観点から分野横断的な取組の指針となるものです。



## III 将来像／目指す方向性（基本理念）／必要な視点／基本原則

3

Digital Smart City HAMAMATSU

### 将来像

### ～デジタルで“繋がる未来”を共創～

人口減少・少子高齢化やインフラ老朽化、コロナ禍の状況においてデジタルの力を最大限に活用し、「市民QoLの向上」と「都市の最適化」を目指し、デジタルで“繋がる未来”を官民で共創します。

### 目指す方向性（基本理念）

「市民QoL※9の向上」と「都市の最適化※10」





### Ⅲ-1 将来像：デジタルで“繋がる未来”の概観

Digital Smart City HAMAMATSU

4

デジタルの力を最大限に活用し、「課題解決型のアプローチ」と、「未来に夢と希望を持てるチャレンジ」を組み合わせることで、ヒト・モノ・コトを繋ぎ、“繋がる未来”を共創します。

デジタル活用で世界と音楽で繋がり、デジタル・音楽・芸術が融合した新たな文化を浜松から発信。

遠隔医療やIoT<sup>15</sup>を活用した見守りでどこでも安心して生活。AI<sup>16</sup>がデータに基づきお薦めの食事や運動を紹介してくれる、いつまでも健康に生活。

世界の学校と繋がりオンライン留学。AIが自分にあった学習メニューを推薦。年齢に関係なく、誰でも多様な学ぶ機会があり、いつでもチャレンジ可能。

高齢者や障がい者、外国人、女性、誰もがデジタル技術に支えられ、社会と繋がりが、それぞれの力を発揮。

ドローンやロボットを活用で省力化と生産性が向上。AIやビッグデータ<sup>17</sup>を駆使し、付加価値が向上した儲かる農林業が実現。

どこにいてもドローンで好きなもの・サービスがいつでも届く。免許を返納してもライドシェアや自動運転で自由どこへでも移動。

デジタル・スマートシティのイメージ図であり、都市構造を示すものではありません。

スマホ1台でどこでもいつでも簡単手続。必要な情報は必要な時に届き、困ったときは、24時間、AIコンシェルジュ<sup>20</sup>が対応。職員との対面相談も選べる、便利で安心な市役所。

センサーのデータやAI予測により危険を回避。被害を最小限に抑え、災害の状況もリアルタイムで可視化。大切な人や情報、支援に繋がりが安全安心な社会を実現。

**【デジタルで“繋がる未来”のキーワード】**

- 人と人が繋がる（リモートでの見守りや面会、相談、帰省等）
- 社会と繋がる（高齢者や障がい者、外国人、女性等の社会参加をサポート）
- 都市部と地方が繋がる（リモートワーク<sup>18</sup>や多拠点居住<sup>19</sup>の促進）
- サービスが繋がる（遠隔教育、遠隔医療、遠隔鑑賞等）

### Ⅲ-2 取組推進に必要な視点

Digital Smart City HAMAMATSU

5

デジタル・スマートシティの推進にあたっては、以下の3つの視点で取り組みます。

<p><b>視点1</b> オープンイノベーション</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多様な主体が自律的に参画し、組織や分野を越えた共創のまちづくりを推進することで、イノベーションの創出を目指します。</li> <li>● オープンであることや相互運用性等を大切に、創造性の高い環境を構築します。</li> </ul>
<p><b>視点2</b> 市民起点／サービスデザイン思考</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● デジタル化を市民に強いたり、技術やソリューション<sup>21</sup>ありきではなく、デジタル活用はあくまで市民QoL向上や地域課題解決の手段と捉え、市民起点のまちづくりを推進します。</li> <li>● サービスやソリューションの創出にあたっては、利用者目線で考える“サービスデザイン思考”で取り組みます。</li> </ul>
<p><b>視点3</b> アジャイル型まちづくり</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● スモールスタートで果敢にチャレンジし、トライ&amp;エラーを繰り返すことでニーズに合ったサービスやソリューションを創出します。</li> <li>● 環境変化のスピードが速い時代において、作りこみすぎないことや回遊性の担保などに配慮し、変化に強い、しなやかなまちづくりを推進します。</li> <li>● 本市の目指す拠点ネットワーク型都市構造の実現にも貢献します。</li> </ul>

### Ⅲ - 3 基本原則

官民共創のまちづくりやアジャイル型のまちづくりを支える共通のルールとして、以下の5つを基本原則としてデジタル・スマートシティを推進します。

<b>1</b> オープン／相互運用性	<ul style="list-style-type: none"> <li>データを流通させることで新たな価値を生み、多様な主体が参加することでイノベーションを創発するため、オープンであること、そして、相互運用性が高いことを原則とします。 (オープンな議論の場、オープンデータ※22、オープンソース※23、標準API※24、GitHub※25上でのオープンな開発等を推奨)</li> </ul>
<b>2</b> 包摂性／多様性	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル化を人に強いるのではなく、あらゆる人の社会活動や都市運営をサポートするツールとして活用していきます。デジタルで高齢者、障がい者、外国人、女性をはじめ、すべての人の社会参加を支え、包摂的で多様な社会を目指します。</li> <li>先端技術やデータの活用の効果は、経済性や効率性だけでなく、課題解決への寄与など社会的なインパクトを大切にしていきます。</li> </ul>
<b>3</b> 透明性／プライバシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの流通や活用には、信頼関係の構築が欠かせません。信頼関係の構築のため、透明性の確保や個人情報・プライバシーの保護に配慮して取り組んでいきます。</li> <li>収集されたデータは、ダッシュボード※26やBIツール※27等を活用し、積極的に可視化していきます。また、データに基づく政策形成（EBPM※28）や合意形成などのまちづくりにも活用していきます。</li> </ul>
<b>4</b> 持続可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たなサービスやソリューション、事業の立ち上げにあたっては、設計や実証実験の段階から、運用面、財政面の両面から持続可能であることが重要であることを十分に認識し進めていきます。</li> <li>財政的な負担においては、受益者を意識した設計を行うとともに、資金調達においては、既存の枠組みに捉われない持続可能な調達のあり方を検討していきます。</li> </ul>
<b>5</b> 安全・安心／強靭性	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然災害やパンデミック※29、サイバー脅威、その他トラブルによる障害が生じても最低限の都市機能を維持し、早急に復旧できるよう配慮し、システムや体制の構築に努めます。</li> </ul>

### Ⅳ 推進体制とエコシステム/ロードマップ

「浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム」を中核に、官民共創でデジタル・スマートシティを推進し、「地域課題の解決」と「イノベーションや新たなビジネスを創出」するエコシステム（好循環）を形成します。

**市民QoLの向上と都市の最適化**

◆オープンイノベーション ◆市民起点 ◆アジャイル型まちづくり

地域課題解決    イノベーションや新たなビジネス創出

**浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム**

◆分野間連携推進 ◆データ活用推進 ◆事業化支援 等

データの見える化

◆ダッシュボード ◆BIツール 等

**データ連携基盤 (API・データ統合基盤)**

※オープンデータの推進

行政	民間	空間
◆遊樂所 ◆休日当番医 ◆病院、診療所	◆学校、幼稚園、保育園 等 ◆交通 ◆電力	◆水質 ◆道路渋滞 ◆温度 ◆駐車場の満空 等

**ロードマップ**

「課題解決」 「データ活用」 を推進    「安全、安心」 を増進    「豊かさ・賑わい」 を増進

2020 ← 第一期 → 2024    2044

市民協働で築く「未来へかがやく創造都市・浜松」  
浜松市未来ビジョン実現への貢献

**■ 推進体制**

- 官民連携プラットフォームは、各分野の推進組織と連携し、分野間連携とデータ活用を推進。
- 官民連携プラットフォームは、民間主導のプロジェクトの創出を支援し、市民目線で地域のプラットフォーム※30及びコーディネーターの機能を担う。

**■ 目指すエコシステム※31**

- ベンチャーなどから課題解決のアイデアやソリューションの提案を受け、実証実験を実施。
- トライ&エラーを繰り返す、社会実装へと繋げる。

**【市民】**

市民は、実証実験への参加やサービスを選択するという間接的な参加やシビックテック※32など直接的な参加を通じ「市民QoL向上」に貢献。

**【企業】**

企業は、地域課題の解決に貢献することで新たなビジネスやイノベーションの創出の機会とする。

**「国土縮型都市・浜松」の多様な実証フィールドの活用**

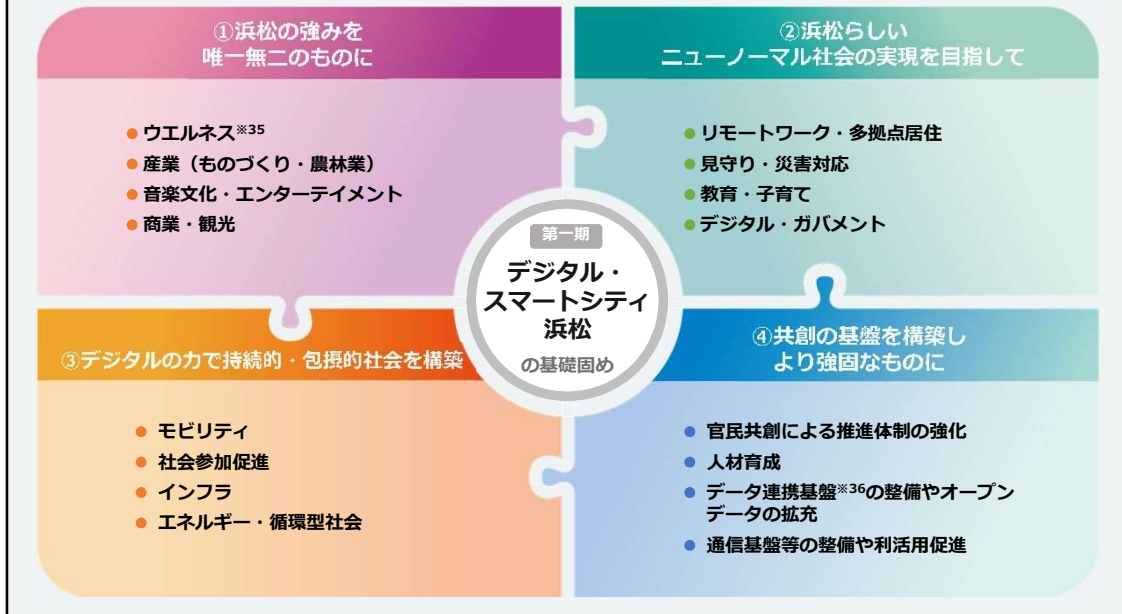
中山間地域  
郊外  
都市部

## V 第一期（2020年度～2024年度）における重点分野の設定

8

Digital Smart City HAMAMATSU

2020年度から2024年度の5年間を第一期と位置づけ、①本市の強みを生かした取組、②ウィズコロナ、ポストコロナ※33のニューノーマル※34や安全・安心への対応、③課題解決型のアプローチにより持続可能で包摂的な社会の構築に向けた取組、④推進基盤の構築や強化に重点的に取り組みます。



### V-1 重点分野【第一期：2020年度～2024年度】

9

Digital Smart City HAMAMATSU

#### (1) 浜松の強みを唯一無二のものに

<p><b>ウエルネス</b></p> <p>背景：健康寿命3期連続日本一</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「予防・健康都市浜松」実現に向けた官民連携</li> <li>○健康情報を活用した生活習慣病等の予防・改善</li> <li>○介護ロボット等の活用による介護従事者の負担軽減</li> <li>○AI等を活用した健診（検診）の受診率向上</li> </ul>	<p><b>産業（ものづくり・農林業）</b></p> <p>背景：世界的なものづくり企業の立地 スタートアップ・エコシステムグローバル拠点都市※37</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国土縮図型都市・浜松のフィールドを活用した新たなサービスやソリューションの創出</li> <li>○サテライトオフィス※38等を活用したベンチャー企業等の誘致</li> <li>○スマート農林業※39の推進</li> <li>○中小企業の生産性向上に向けたIT・IoT等の活用支援</li> </ul>
<p><b>音楽文化・エンターテインメント</b></p> <p>背景：世界的な楽器メーカーの集積 ユネスコ創造都市（音楽分野）※40</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○デジタル技術を活用した文化事業の実施</li> <li>○ニューノーマル時代のエンターテインメントの新たな楽しみ方の創出と普及</li> <li>○インターネットを活用した音楽文化等の発信とリモートによる国際交流の推進</li> </ul>	<p><b>商業・観光</b></p> <p>背景：多様で豊かな観光資源や自然環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○デジタル・マーケティング※41の活用による情報発信</li> <li>○新しい生活様式に即した観光の活性化と賑わいの創出</li> <li>○関係人口※42の拡大や多拠点居住の促進</li> <li>○デジタル活用による移住・定住・交流の促進</li> <li>○キャッシュレスの推進</li> <li>○デジタルを活用したインセンティブ付与による誘客や消費活性化の研究</li> </ul>

## V-2 重点分野【第一期：2020年度～2024年度】

10

Digital Smart City HAMAMATSU

### (2) 浜松らしいニューノーマル社会の実現を目指して

<p><b>リモートワーク・多拠点居住</b></p> <p>背景：リモートワークや多拠点居住等の需要の高まり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○関係人口の拡大や多拠点居住の促進【再掲】</li> <li>○デジタル活用による移住・定住・交流の促進【再掲】</li> <li>○リモートワークやテレワーク※43の推進</li> <li>○テレワークパーク構想※44の推進</li> <li>○副業・兼業人材の活用促進</li> </ul> 	<p><b>見守り・災害対応</b></p> <p>背景：安全・安心な生活の追及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○IoT等を活用した高齢者や子供の見守り推進</li> <li>○災害予測や災害状況の効果的な把握</li> <li>○災害関連情報の効果的な提供</li> <li>○避難所の効果的な3密対策</li> </ul> 
<p><b>教育・子育て</b></p> <p>背景：子育て世代を全力で応援するまち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○OGIGAスクール構想※45の実現に向けた教育環境整備</li> <li>○オフライン授業とオンライン授業のハイブリッド※46による持続可能な教育の推進</li> <li>○ICT等を活用した子どもや子育て世代への効果的な情報提供や相談体制の構築</li> </ul> 	<p><b>デジタル・ガバメント</b></p> <p>背景：コロナ禍におけるオンライン化等のニーズの高まり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○書面規制・押印・対面規制等の見直し</li> <li>○行政手続きのオンライン化やキャッシュレスの推進</li> <li>○マイナンバーカードの取得促進とマイナンバーカードを活用した行政サービスの拡充</li> <li>○多様な伝達手段による情報の提供</li> <li>○AIやICT等の活用による生産性の向上</li> <li>○DX推進に向けた職員の人材育成</li> </ul> 

## V-3 重点分野【第一期：2020年度～2024年度】

11

Digital Smart City HAMAMATSU

### (3) デジタルの力で持続的・包摂的社会を構築

<p><b>モビリティ</b></p> <p>背景：人口減少による公共交通や各種サービスの持続困難 交通事故ワースト1、渋滞の改善や周遊性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○モビリティとサービスの連携による持続可能なまちづくりの推進</li> <li>○モビリティサービス推進コンソーシアムを中核とした官民連携によるプロジェクトの創出</li> <li>○医療MaaS※47の推進</li> <li>○フードデリバリープラットフォーム※48の推進</li> <li>○テレワークパーク構想の推進【再掲】</li> </ul> 	<p><b>社会参加促進</b></p> <p>背景：多様で包摂的な社会構築の要請</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○AIやICT等の活用による障壁の除去</li> <li>○バリアフリー情報等のオープンデータ化の促進</li> <li>○情報へのアクセシビリティ※49の向上</li> <li>○ICT技術やSNS等を活用した市民参加の促進</li> <li>○シニア向けスマホ講座等の充実</li> </ul> 
<p><b>インフラ</b></p> <p>背景：全国で2番目に広い市域とインフラの老朽化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ドローンやセンサー等の活用によるインフラの老朽化対策</li> <li>○点群データ※50などインフラ情報のデジタル化</li> <li>○都市のデジタル化推進におけるインフラの利活用や高度化の検討</li> </ul> 	<p><b>エネルギー・循環型社会</b></p> <p>背景：再生可能エネルギー導入容量 日本一 環境と共生した持続可能な社会実現の要請</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「浜松市域“RE100”※51」の実現に向けた推進</li> <li>○スマートコミュニティ※52、スマートタウン※53のモデル構築</li> <li>○スマートプロジェクトの実現</li> <li>○新清掃工場及び新破碎処理センターをモデルとしたサーキュラーエコノミー※54の推進</li> </ul> 

## V-4 重点分野と推進基盤構築【第一期：2020年度～2024年度】

12

Digital Smart City HAMAMATSU

### (4) 共創の基盤を構築し、より強固なものに

<p><b>官民共創による推進体制の強化</b></p> <p>背景：官民連携の中核となるプラットフォームの設立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○浜松市フェロー※55等外部人材の活用</li> <li>○官民共創によるプロジェクト創出に向けたアイデアソン※56等の開催</li> <li>○次代を担う若者世代の巻き込み</li> <li>○官民連携プラットフォームを活用した分野間の連携促進</li> <li>○シビックテックとの連携や共創</li> </ul> 	<p><b>人材育成</b></p> <p>背景：DX推進を担う人材の確保や育成の必要性の高まり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○次代を担う若者の育成</li> <li>○データ活用に関するセミナーやハッカソン※57等の開催</li> <li>○シニア向けスマホ講座等の充実【再掲】</li> <li>○人材育成におけるリモートやオンラインセミナー等の活用</li> <li>○人材育成における大学やCode for Japan※58等との連携</li> </ul> 
<p><b>データ連携基盤の整備やオープンデータの拡充</b></p> <p>背景：分野横断のデータ活用による地域課題の解決を目指すまちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○データ流通のハブとなるデータ連携基盤の整備と利活用</li> <li>○データ連携基盤の活用事例の創出 (Ori-Projectの推進)</li> <li>○オープンデータプラットフォーム (ODPF) の整備と利活用</li> <li>○点群データのオープンデータ化と利活用促進</li> </ul> 	<p><b>通信基盤等の整備や利活用促進</b></p> <p>背景：デジタル時代のインフラとしての通信基盤のニーズの高まり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中山間地域等への光ファイバ網の整備支援</li> <li>○5G※59アンテナ基地局の設置や利活用の促進</li> <li>○各種通信（高速・低速等）活用の事例の共有と横展開</li> <li>○活用事例の創出やニーズ喚起による各種通信インフラ整備の働きかけ</li> </ul> 

## VI 用語の解説 (1/5)

※本構想で使用しているケースでの意味を解説しています。

13

Digital Smart City HAMAMATSU

※1 デジタル・スマートシティ	「デジタルファースト宣言」の3つの戦略分野の1つである「都市づくり」における政策。データや先端技術を最大限に活かし、産業の活性化やインフラの効率的な維持管理など都市機能の高度化を目指す。
※2 浜松市デジタルファースト宣言	令和元年10月31日に発出。「データ活用や地域課題解決を通じたイノベーションの活性化」「デジタル化による生産性向上」「デジタル技術やデータの活用による市民生活の快適化」を目指すため、「都市づくり」「市民サービス」「自治体運営」にデジタルファーストで取り組むことを宣言。
※3 デジタルニューディール	「新たな日常」構築の原動力となるデジタル化への集中投資・実装とその環境整備のこと。
※4 デジタル・トランスフォーメーション DX	データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデル、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革すること。
※5 デュアルモード社会	経済効率を重視する「経済モード」と、国民の健康と安全を最優先にする「安全モード」の2つのモードを新型コロナウイルス感染症の状況に応じて適宜切り替える社会。
※6 総合計画	浜松市の最上位計画。30年後（1世代先）の理想の姿を示した「浜松市未来ビジョン（基本構想）」と、10年間の総合的な政策を定めた「第1次推進プラン（基本計画）」の2層で構成される。
※7 経済財政運営と改革の基本方針（骨太方針）	国の経済対策等の基本骨格を示したもの。
※8 統合イノベーション戦略	科学技術に係る基礎研究から社会実装まで一貫通貫の戦略として2018年から毎年度国が策定する戦略。イノベーションとは「技術革新」のこと。
※9 キュー・オー・エル QoL	「Quality of Life」の略。人々の幸福感・効用など、社会のゆたかさや生活の質のこと。
※10 都市の最適化	都市の抱える諸課題に対して、ICT等の新技術を活用しつつ、効果的・効率的な都市計画、都市整備、都市管理・運営を実現すること。
※11 オープンイノベーション	内部と外部の技術やアイデアなどの資源の流出入を活用し、組織内で創出したイノベーションを組織外に展開する市場機会を増やすこと。
※12 サービスデザイン思考	サービスを利用する際の利用者の一連の行動に着目し、サービス全体を設計する考え方。
※13 アジャイル	「Agile」「俊敏な」「すばやい」という意味の英単語。アジャイル型まちづくりでは、仕様や設計の変更があることを前提に開発を進めていき、徐々にすり合わせや検証を重ねていくというアプローチをとる。
※14 スモールスタート	新たな事業やプロジェクトを立ち上げる際に、最初は機能やサービスを限定するなどして小規模に展開させること。
※15 アイ・オー・ティ IoT	「Internet of Things」の略。従来インターネットに接続されていなかった様々なモノが、ネットワークを通じて相互に情報交換をする仕組み。
※16 エーアイ AI	「Artificial Intelligence」の略。人間の思考プロセスと同じような形で動作するプログラム、あるいは人間が知的と感ずる情報処理・技術といった広い概念で理解されている。
※17 ビッグデータ	スマートフォン等を通じた位置情報や行動履歴、インターネットやテレビでの視聴・消費行動等に関する情報、また小型化したセンサー等から得られる膨大なデータのこと。

## VI 用語の解説 (2/5)

※本構想で使用しているケースでの意味を解説しています。

14

Digital Smart City HAMAMATSU

※18 リモートワーク	情報通信技術(ICT = Information and Communication Technology)を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと。
※19 多拠点居住	都市部や地方部に複数の拠点をもち、定期的に地方部でのんびり過ごしたり、仕事をしたりする新しいライフスタイルの1つ。
※20 コンシェルジュ	アパートにおける管理人や、ホテルにおいて宿泊客の要望に応えたり案内したりする人を指す。
※21 ソリューション	抱えている課題を解決することや、そのために提供されているシステム。
※22 オープンデータ	国、地方公共団体及び事業者が保有する官民データのうち、国民誰もがインターネット等を通じて容易かつ無償で利用できるように、公開されたデータのこと。
※23 オープンソース	ソフトウェアのソースコードを公開して、改良や再配布を認めるという思想。ソースコードは、プログラミング言語で書かれたコンピュータプログラムを表現する文字列のこと。
※24 標準API エー・ピー・アイ	サービス提供者が公式に仕様を定義・管理しているAPIのこと。APIは、Application Programming Interfaceの略。
※25 ギットHub GitHub	他の開発者と一緒にソフトウェアの開発等を行うことができるプラットフォーム。プラットフォームは、共通の土台(基盤)のこと。
※26 ダッシュボード	複数の情報源からデータを集め、概要をまとめて一覧表示する機能や画面、ソフトウェアなどを指す。
※27 ビーアイ BIツール	企業内にあるさまざまな種類の業務データを統合、分析、可視化することで、ビジネスの意思決定に必要な情報を提供するツールのこと。BIは「Business Intelligence」の略。
※28 イービーピーエム EBPM	「Evidence Based Policy Making」の略。政策的を明確化したうえで合理的根拠に基づき政策企画を行うこと。
※29 ハンデミック	世界的な大流行のこと。
※30 プラットフォーマー	サービスの基盤をユーザーなどに提供する事業者のこと。
※31 エコシステム	複数の企業や団体がパートナーシップを組み、それぞれの技術や強みを生かしながら、業種・業界の垣根を越えて共存共栄する仕組み、すなわちビジネス上の生態系のこと。
※32 シビックテック	シビック(Civic:市民)とテック(Tech:テクノロジー)をかけた造語。市民自身が、テクノロジーを活用して、行政サービスの問題や社会課題を解決する取り組みをいう。

## VI 用語の解説 (3/5)

※本構想で使用しているケースでの意味を解説しています。

15

Digital Smart City HAMAMATSU

※33 ウイズコロナ、ポストコロナ	新型コロナウイルスの流行に即した今とこれからを指す
※34 ニューノーマル	新型コロナウイルス感染症の流行を経て移行する人々の行動・意識・価値観の新たな常態・常識のこと。
※35 ウェルネス	疾病・障害の有無にかかわらず、明るく前向きに生きようとする心を育てること。
※36 データ連携基盤	複数主体が個別に保有する情報システム及びデータ同士の相互の連携を確保するための仕組みのこと。これにより1対1で結合されていたシステム・サービスの壁を越えて様々なデータを様々なシステム・サービスで活用することが可能になる。
※37 スタートアップ・エコシステム グローバル拠点都市	内閣府が経済面や技術面など様々な支援を行うことで世界と同等に戦える日本企業の創出を目指し、全国で4地域を選定
※38 サテライトオフィス	企業や団体の本社・本拠から離れた場所に設置されたオフィスのこと。
※39 スマート農林業	ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用する農林業のこと。
※40 ユネスコ創造都市 (音楽分野)	文学、映画、音楽、クラフト&フォークアート、デザイン、メディアアート、食文化の分野において世界でも特色ある都市を認定する事業として、2004年にユネスコ創造都市ネットワークが創設された。浜松市は、2014年12月に音楽分野での加盟が認定された。
※41 デジタル・マーケティング	インターネットやIT技術など「デジタル」を活用したマーケティング手法のこと。ビッグデータ技術やAIなどを活用して顧客の嗜好や行動を分析し、隠れたニーズやトレンドまでを考慮して行われる。
※42 関係人口	特定の地域と多様に関わる人々をさす言葉。
※43 テレワーク	※18リモートワークと同義。
※44 テレワークパーク構想	車や駐車場を活用することでより良いテレワーク環境をつくり、浜松市をあげてテレワークを促進していくために「浜松テレワークパーク実現委員会」により発案された構想。

## VI 用語の解説 (4/5)

※本構想で使用しているケースでの意味を解説しています。

16

Digital Smart City HAMAMATSU

※45	キガ GIGAスクール構想	文部科学省が提唱する構想。一人一台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、子供の資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現するとしている。
※46	ハイブリッド	異種のもの組み合わせによって生み出されるもの
※47	マース Maas	「Mobility as a Service」の略。複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービス。観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となる。
※48	フードデリバリープラットフォーム	飲食のデリバリー、テイクアウトにおいて発注・決済から配達依頼、配達までを一元管理する仕組み。浜松市内ではFoodelixというプラットフォームが構築されている。
※49	アクセシビリティ	[accessibility] 近づきやすさ、利用しやすさ、などの意味を持つ英単語で、ITの分野では機器やソフトウェア、システム、情報などが身体の状態や能力の違いによらず様々な人から同じように利用できる状態やその度合いのことを指す。
※50	点群データ	実空間に存在する物・環境を3Dセンサによってその表面形状を取得した3D点の座標の集まりのデータのこと。
※51	アールイー 浜松市域“RE100”	市内の総消費電力に相当する電気を、市内の再生可能エネルギーで生み出すことができる状態（RE100の考え方を参考に市独自に定義したもの）。RE100；使用する電力の100%を再生可能エネルギーにより発電された電力にすることに取り組んでいる企業が加盟している国際的な企業連合。
※52	スマートコミュニティ	再生可能エネルギーや蓄電池等の様々なエネルギー設備とエネルギーマネジメントシステムが導入された施設などが集まった街区であり、CEMSにより、電力に加え、熱や水等の生活インフラも最適制御された社会（街区）。次世代エネルギー・社会システムとして注目されている。
※53	スマートタウン	住宅・都市開発において、環境負荷の低減と暮らしの質の向上を目指した持続可能なまちのこと。
※54	サーキュラーエコノミー	「循環経済」のことで、従来の「大量生産・大量消費・大量廃棄」の「線形経済」に代わる、製品と資源の価値を可能な限り長く保全・維持し、廃棄物の発生を最小化した経済を指す。
※55	浜松市フェロー	デジタル技術、データ活用、デジタルマーケティングその他のデジタル・スマートシティに関する専門的知識、経験等を有する者のうち、本市のデジタル・スマートシティ推進に関して、専門的立場から支援、助言を行う者。
※56	アイデアソン	「アイデア」と「マラソン」を組み合わせた造語で、アイデアの創出を目的としたイベントのこと。

## VI 用語の解説 (5/5)

※本構想で使用しているケースでの意味を解説しています。

17

Digital Smart City HAMAMATSU

※57	ハッカソン	「ハック（プログラムの改良）」と「マラソン」を組み合わせた造語で、ソフトウェア開発に関わる人々が集まって、集中的にプログラムやサービスの開発を行うイベントのこと。
※58	コード・フォー・ジャパン Code for Japan	「ともに考え、ともにつくる」をコンセプトに、民間と行政が共に技術活用をしながら課題解決を行っていく場づくりを行う非営利団体。2013年10月25日設立。
※59	ファイブ・ジー 5G	第5世代移動通信システムのこと。超高速通信や、多数の機器が同時にネットワークに繋がる「多数接続通信」、遠隔地でもロボット等の捜査をスムーズに行える「超低遅延通信」が可能になる予定。

区 協 議 会

区 分	<input type="checkbox"/> 諮問事項 <input checked="" type="checkbox"/> 協議事項 <input type="checkbox"/> 報告事項				
件 名	浜松版 MaaS 構想（案）のパブリック・コメント実施について				
事業の概要 （背景、経緯、 現状、課題等）	<p>○趣旨 本構想は、市民、企業・大学等、行政が主体的に参加し、地域課題解決や地域活性化に繋がる MaaS サービスを生み出す際の指針となるもの。</p> <p>○背景 ・人口減少・少子高齢化を背景に、公共交通の維持をはじめとした交通課題に直面している。生活サービス（買物や医療等）の維持も大きな課題であり、各種サービスとモビリティの連携による持続可能なまちづくりが求められている。</p> <p>※MaaS（Mobility as a Service）とは 一般的に、目的地までの移動について、異なる交通手段を組み合わせて、検索・予約・決済等を一括で行うことができるサービスを指す。本市ではこれに加え、交通を医療や商業といった異なるサービスと繋げることにより、市民にとってより便利で豊かな都市の実現を目指す。</p>				
対象の区協議会	全区協議会				
内 容	<p>浜松版 MaaS 構想（案）のパブリック・コメント実施について概要を説明するとともに、内容について協議するもの。</p> <p>○浜松版 MaaS 構想（案）の構成（案）※別添資料参照                      I. 構想策定の背景                      II. 構想策定の趣旨／構想の位置づけ                      III. 構想に活かすべき本市の強み                      IV. 構想の目指す方向性（基本理念）                      V. MaaS 推進の考え方                      VI. モビリティサービス                      VII. 推進体制                      VIII. ロードマップ                      IX. 第一期（2020～2024年）の取組イメージ                      X. 用語の解説</p>				
備 考 （答申・協議結果を得たい 時期、今後の予定など）	<p>パブリック・コメント実施（案の公表、意見募集） 令和3年1月25日～2月24日</p> <p>市の考え方公表時期      令和3年3月予定</p> <p>実施時期または施行時期      令和3年4月1日予定</p>				
担当課	デジタル・スマートシティ推進事業本部	担当者	深瀬真司	電話	457-2454





# 浜松版MaaS構想（案）

## 背景

- 国は、骨太の方針で、東京一極集中型から「多核連携型」への移行を掲げ、地方都市の活性化に向けた環境整備の推進を位置づけています。移動環境の整備は重要施策の一つであり「日本版MaaSの推進」等の取組が成長戦略に位置づけられています。また国際社会における環境負荷低減の要請への対応も求められています。
- 本市は、人口減少・少子高齢化を背景に、公共交通の維持をはじめとした交通課題に直面しています。生活サービス（買物や医療等）の維持も大きな課題であり、各種サービスとモビリティの連携による持続可能なまちづくりが求められています。
- 本市は「デジタルファースト宣言」のもとデジタル・スマートシティの取組を始動。データ活用等でMaaSの取組との連携が求められています。
- Withコロナ/ポストコロナ時代の「ニューノーマル」に対応した新たな環境整備の一つである「デュアルモード社会」の構築も求められています。

## 活かすべき本市の強み

- 多様な暮らし方や楽しみ方を可能にする環境（国土縮図型都市／交通至便）
- 市民・企業のやらまいか精神や共助の心
- ものづくり力（世界的な輸送用機器メーカーや楽器メーカー等の集積／スタートアップ・エコシステムグローバル拠点都市）

## 目指す方向性（基本理念）

### ヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”と、浜松の暮らしはもっとかがやく

人口減少・少子高齢化で限られた資源（ヒト・モノ・コト）をモビリティで繋ぎ、持続可能な都市を目指します。さらに、ヒトの移動に留まらない価値を創出し、浜松での暮らしをより豊かにし、来訪者にとっての魅力も高めています。

#### 必要な視点1：地域ごとの魅力の最大化

都市部から中山間地まで多様な暮らし方・楽しみ方ができる本市の魅力最大化します。

#### 必要な視点2：ともに支え、ともに創造

人々の移動や地域を“ともに支え”、様々なモビリティサービスを創出することでより豊かな暮らしを“ともに創造”します。

#### 必要な視点3：しなやかに繋がる

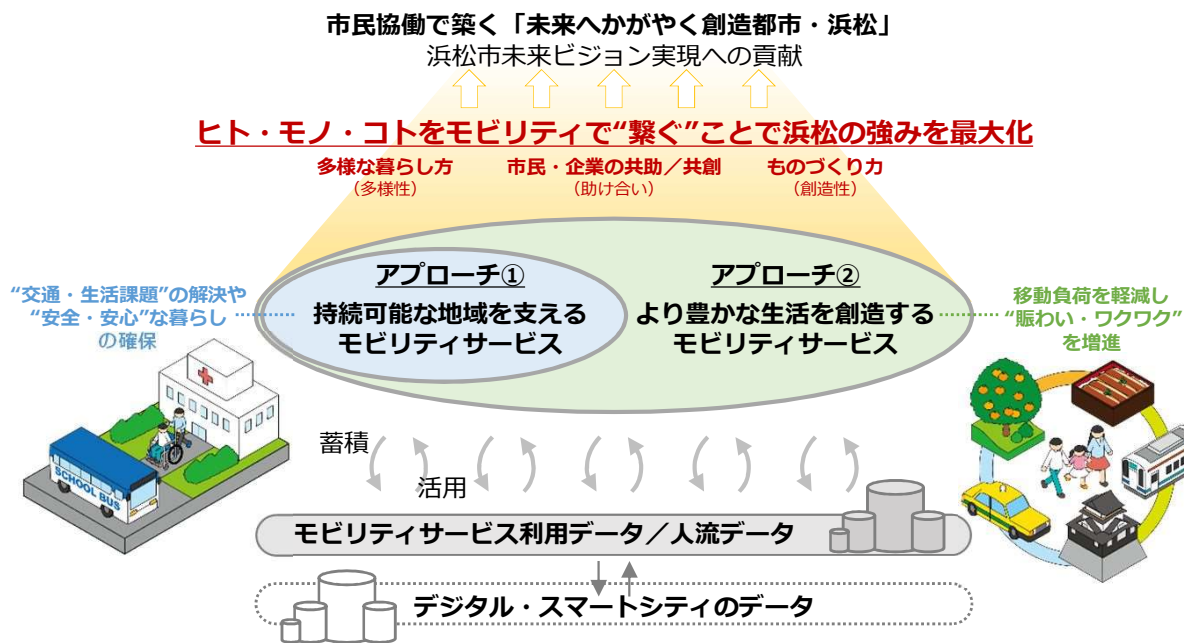
利用者目線のシームレスなサービスや自然災害・パンデミックへの備えなど、しなやかに繋がる地域を構築します

#### 必要な視点4：市民起点でのまちづくり

コンパクトでメリハリのあるまちづくりとともに、デジタルテクノロジーは手段として捉え、高齢者や子育て世代をはじめ多様な市民の生活ニーズからサービスを発想します。

## MaaS推進の考え方

喫緊の課題への対応（アプローチ①）と、未来へのチャレンジ（アプローチ②）を組合せて取り組みながら多様性・創造性といった浜松市の強みを最大化していきます。



## 推進体制：

市民・企業の主体的参加で創造性の高いエコシステムを形成していきます。



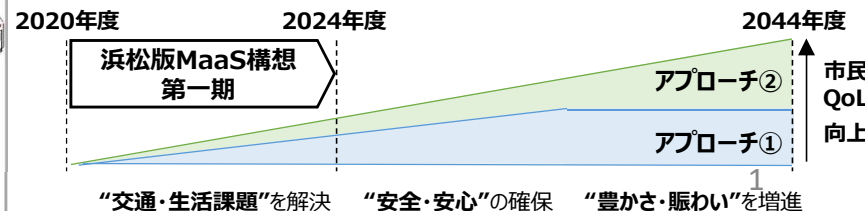
## 中核となる「浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム」

官民が連携し、モビリティサービスを生み出すプロジェクト創出を支援しています。「浜松市デリバリープラットフォーム」や「浜松テレワークパーク構想」など、様々なプロジェクトが立ち上がり、創造性の高いエコシステムを形成しています。



## ロードマップ：

2020年度から2024年度の5年間で第一期と位置づけ、交通・生活課題解決から着手し、モビリティとサービスの連携や官民共創の取組を推進し、浜松版MaaSの基礎固めを行います。



# 浜松版MaaS構想（案）

## 考えられるサービスのイメージ

“国土縮図型都市”と呼ばれる本市の多様なフィールドを活用し、市の全域でイノベーションを起こしていきます。

### アプローチ①

持続可能な地域を支える  
モビリティサービス

### アプローチ②

より豊かな生活を創造する  
モビリティサービス

移動負担を軽減し  
“賑わい・ワクワク”  
を増進



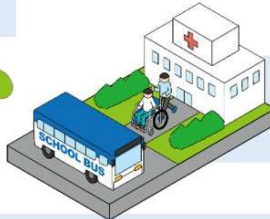
買物難民や  
宅配業の人手不足  
等への対応として、支えあ  
いによる小売や物流の促進。  
**移動販売や  
配送の地域内連携**

### 移動診療の推進

（医療MaaS）

車を活用した遠隔診療や  
遠隔服薬指導、薬剤  
配送の推進。

“交通・生活課題”の解決や  
“安全・安心”な暮らし  
の確保



### 遊休モビリティ資産の活用

介護や福祉施設の送迎車両やスクールバスなど、  
昼間の遊休車両等の活用の促進。

### 自家用車を使った乗り合いの促進

（自家用有償旅客運送等）

公共交通の維持が困難な地域を  
中心に、住民が自家用車を用いて、  
住民を有償運送する共助型のサービスの  
導入を促進。



### 異なる交通手段の連携や 一体的運用・運営

異なる交通手段の連携や  
デマンド型の運行等を活用し、  
移動の効率化を促進。



### デュアルモード社会づくりへの貢献

自然災害やパンデミック発生など、移動が  
制限される際のドローン等の活用の検討。

### 移動や人流データの 活用・見える化

（公共交通の効率化、アプリ活用など）

MaaSサービスの利用データや、ビーコン  
等で収集された人流データ等を  
活用し、運行の最適化や  
新たなサービス創出を促進。



浜松市  
MAP

### 多拠点居住用サブスクMaaS

（関係人口向けの移動環境）

「多拠点生活者」向けにサブスクで利用できる  
移動手段の提供など、多拠点居住者  
誘致に向けた環境整備。



### 観光資源との連携

モビリティで観光資源を  
繋いだり、観光施設や  
アクティビティとセットにしたチケット  
の販売等で浜松の魅力を最大化。



### 商業施設等 との連携

クーポンの配信やサイネージへのリコメンド情報の表示  
など、商業施設等との連携により、まちを活性化。



中山間地域をはじめ、  
公共交通の  
維持が難しい地域  
での活用を検討。  
**自動運転車の活用**

### 浜松テレワークパーク構想

クルマをオフィス空間として活用し、  
駐車場の空きスペースを利用  
することで、景観や環境を  
自由に選べるサービスを  
官民共創で構築。



### フードデリバリー プラットフォーム構築

浜松発の地方版フードデリバリー  
プラットフォームを官民連携で構築。



### イベント等との連携

食、音楽、演劇等、場所を問わず  
車で提供可能な様々なエンターテインメントを組み合わせ、  
浜松の豊かな自然を活用した  
イベントを提供。

## 第一期（2020年度～2024年度）の取組

重点分野の取組と基盤づくりを推進し、本市が日本版MaaSを先導するエリアとなることを目指します。

### 重点分野

#### 健康・医療・福祉

中山間地域の医師不足や  
高齢化への対応など

#### 生活インフラ

高い自動車分担率・  
高齢者の免許返納への対応など

#### With/ポストコロナ

デュアルモードへの対応など

#### 防災・安全

インフラメンテナンスや  
災害時の対応など

### 基盤づくり

#### エコシステム構築

市民、企業・大学等、行政が連携し、  
創発性の高いエコシステム

#### データ利活用

地域課題の解決や地域の活性化  
に向けた、データの利活用の促進

#### 移動診療

（医療MaaS）

#### 自家用車乗り合い

（自家用有償旅客運送）

#### フードデリバリー

（浜松版プラットフォーム）

#### 浜松テレパーク構想

（クルマをオフィス空間に）

#### ドローン活用

（平時・有事）

浜松市モビリティサービス推進  
コンソーシアムでのアイデアソン等

モビリティ分野のデータ利活用に  
関する勉強会開催等

# 浜松版MaaS構想（案）

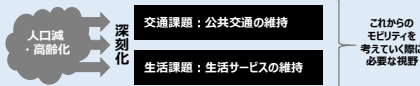


## I. 構想策定の背景

持続可能なまちづくりや生活サービスの維持・質の向上に向けて  
交通領域にとどまらず、市民の生活全般に関わるテーマとして捉えた“新たな発想のMaaS（\*①）”が求められています。

### 浜松市の現状と課題

- 人口減少・少子高齢化を背景とし、公共交通の維持をはじめとした交通課題に直面している。生活サービス（買物や医療等）の維持も大きな課題であり、各種サービスとモビリティ（\*②）の連携による持続可能なまちづくりが求められている。



- 本市は「デジタルファースト宣言（\*③）」のもとデジタル・スマートシティ（\*④）の取組を始動。分野間連携による市民QoL（\*⑤）向上や都市の最適化（\*⑥）に向けMaaSの取組との連携が求められている。

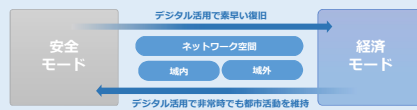


### 関連動向

- 国は、骨太の方針（\*⑦）で、東京一極集中型から「多核連携型」への移行を掲げ、地方都市の活性化に向けた環境整備を推進することとしている。そうした中、**移動環境の整備は重要施策の一つ**であり「**自家用有償旅客運送（\*⑧）制度の創設**」や「**日本版MaaSの推進**」等の取組が**成長戦略（\*⑨）**に位置付けられている。また、国際社会における環境負荷低減の要請への対応も求められている。

- 日本版MaaSの推進（成長戦略フォローアップ）
  - ① 地域における移動手段の維持・活性化
  - ② モビリティと物流・サービスとの融合（自家用有償旅客運送の円滑な実施…等）
  - ③ 新しいまちづくりとモビリティ
  - ④ データ連携の加速

- 「Withコロナ/ポストコロナ時代（\*⑩）」の「**ニューノーマル（\*⑪）**」に対応した新たな環境整備の一つである「**デュアルモード社会（\*⑫）**」の構築も求められている。



モビリティと各種サービスの連携により、持続可能なまちづくりを推進するにあたり、その指針として「浜松版MaaS構想」を策定して、市民のみならずと共有するとともに交通領域にとどまらない様々なプレイヤー（\*⑬）による共創を促していきます。

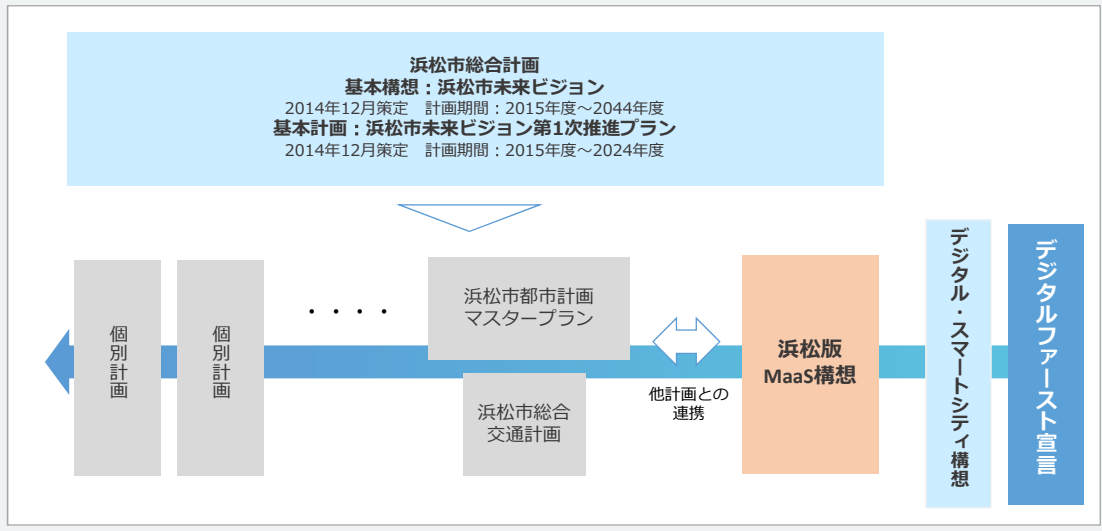
## II. 構想策定の趣旨／構想の位置づけ

2

Digital Smart City HAMAMATSU

本構想は、市民、企業・大学等、行政が主体的に参加し、地域課題解決や地域活性化に繋がるサービスを生み出す際の指針となるものです。

本構想は、本市の最上位計画である総合計画<sup>(※98)</sup>に基づく個別計画であるとともに、「浜松市都市計画マスタープラン」「浜松市総合交通計画」「浜松市デジタル・スマートシティ構想」等の他計画と連携しながら、交通課題に限らず多様な都市課題解決の取組の指針となります。



## III. 構想に活かすべき本市の強み

3

Digital Smart City HAMAMATSU

構想策定にあたっては、浜松市の特徴や強みを活かす視点を持ち、浜松市ならではのMaaSを推進していきます。

強み①  
(多様性)

### 多様な暮らし方や楽しみ方を可能にする環境

- 都市部・郊外・中山間地域と、様々な暮らし方・楽しみ方ができる多様な環境（国土縮図型都市）
- 新幹線や高速道路等、近隣都市圏とのアクセスが便利な交通環境



強み②  
(助け合い)

### 市民・企業の“やらまいか精神”や共助の心

- 「やってみよう」「やってみようじゃないか」と、新しいことに果敢にチャレンジする精神、そして浜松を誇りに思い、互いに助け合う心など、オープンなイノベーション<sup>(※99)</sup>の土壌



強み③  
(創造性)

### ものづくり力

- 世界的な輸送用機器メーカーや楽器メーカーが集積しており、また同時にスタートアップ・エコシステムグローバル拠点都市<sup>(※98)</sup>でもある大企業とスタートアップ<sup>(※100)</sup>の共創・創発が生まれやすい環境



## IV. 構想の目指す方向性（基本理念）

4

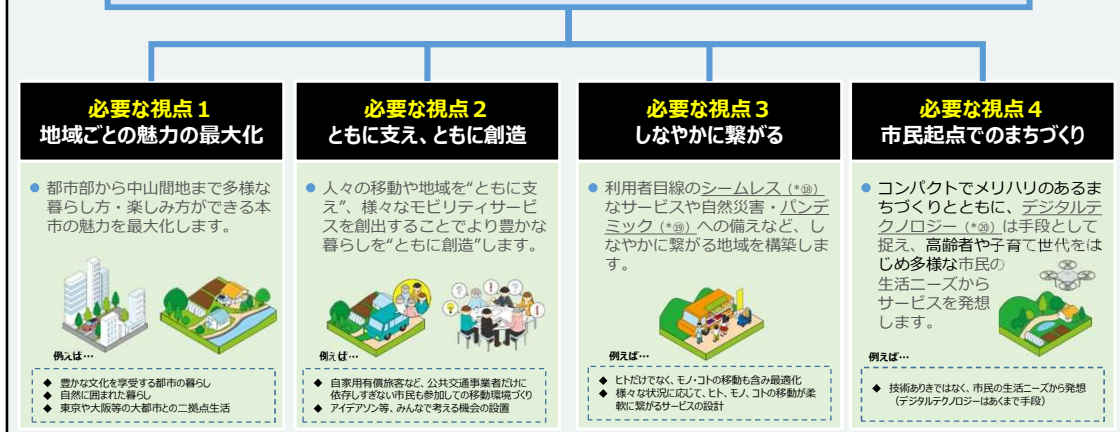
Digital Smart City HAMAMATSU

浜松市のヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”ことによって、持続可能でより豊かな都市の実現を目指します。

### ヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”と浜松の暮らしはもっと輝く

人口減少・少子高齢化で限られた資源（ヒト・モノ・コト）をモビリティで繋ぎ、持続可能な都市を目指します。

さらに、ヒトの移動に留まらない価値を創出し、  
浜松での暮らしをより豊かにし、来訪者にとっての魅力も高めていきます。

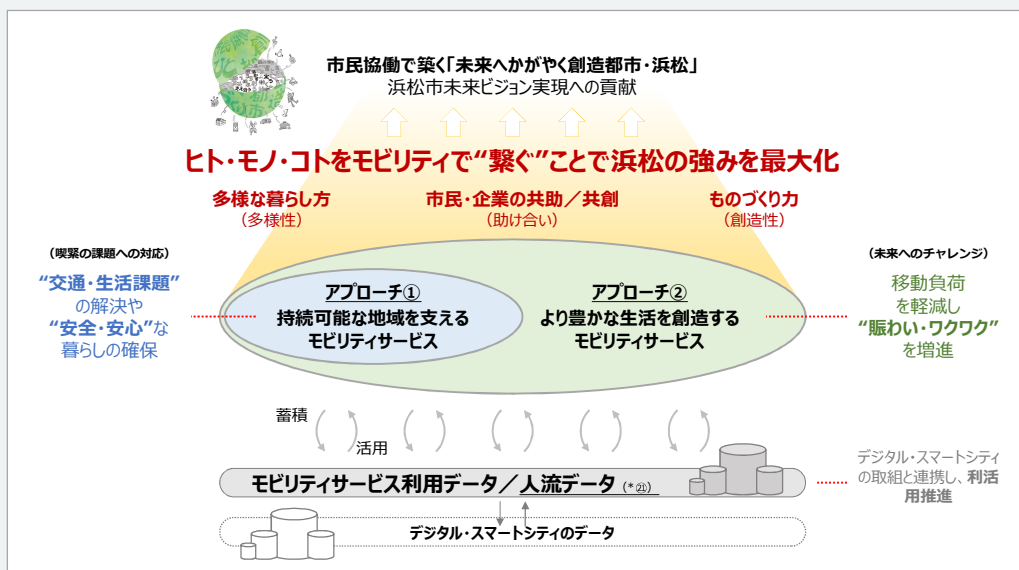


## V. MaaS推進の考え方

5

Digital Smart City HAMAMATSU

『喫緊の課題への対応』と『未来へのチャレンジ』を組合せて取り組みながら  
多様性・創造性といった浜松市の強みを最大化していきます。



## VI. モビリティサービス（取り組み例）

Digital Smart City HAMAMATSU

6



### VI-1-1. 持続可能な地域を支えるモビリティサービス（取り組み例）

Digital Smart City HAMAMATSU

7



## VI-1-2. 持続可能な地域を支えるモビリティサービス（取り組み例）

8

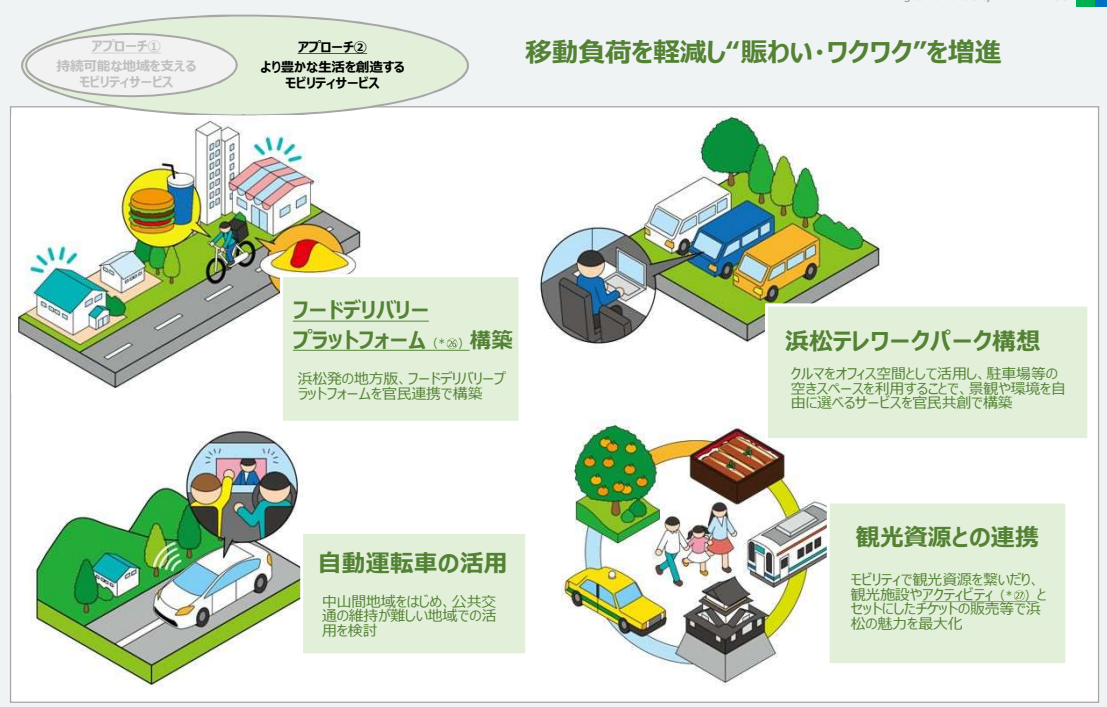
Digital Smart City HAMAMATSU



## VI-2-1. より豊かな生活を創造するモビリティサービス（取り組み例）

9

Digital Smart City HAMAMATSU





## VI-2-2. より豊かな生活を創造するモビリティサービス（取り組み例）

10

Digital Smart City HAMAMATSU

アプローチ①  
持続可能な地域を支える  
モビリティサービス

アプローチ②  
より豊かな生活を創造する  
モビリティサービス

### 移動負荷を軽減し“賑わい・ワクワク”を増進



#### 商業施設等との連携

クーポンの配信やサイネージ（\*30）へのリコメンド情報（\*33）の表示など、商業施設等との連携により、まちを活性化



#### 多拠点居住（\*28）用サブスク（\*29）MaaS（関係人口（\*32）向けの移動環境）

サブスクで利用できる移動手段の提供など、多拠点居住者誘致に向けた環境整備



#### イベント等との連携

食、音楽、演劇等、場所を問わず車で提供可能な様々なエンターテインメントを組み合わせ、浜松の豊かな自然を活用したイベントを提供

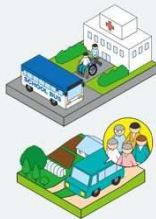
## VI-3. データ利活用について

11

Digital Smart City HAMAMATSU

### 地域の課題解決にデータを活用し、持続可能で豊かな地域を目指す。

#### ■ 地域交通の効率化・生活インフラの維持



##### <活用イメージ>

- 自家用有償・乗り合いサービス
- バスルートの最適化
- 移動診療・移動販売

##### <データ例>

- 自動車GPS（\*33）/コネクテッド（\*34）
- モノ・サービス移動ログ（\*35）

#### ■ 渋滞や事故軽減・インフラメンテナンス



##### <活用イメージ>

- 渋滞情報の共有や軽減対策
- 交通事故の軽減対策
- 道路等のモニタリング

##### <データ例>

- 市民GPSログ
- 自動車GPS/コネクテッド
- バス・タクシーGPS/ビーコン
- 公共交通ダイヤ/事故情報
- 車載カメラによる道路情報

#### ■ 地域活性化



##### <活用イメージ>

- 広告/クーポン配布
- 個々人に最適化された商品提供
- 移動を含む観光パッケージ

##### <データ例>

- 市民GPSログ
- バス・タクシーGPS/ビーコン
- 観光地・周辺施設情報

## VII. 推進体制

12

Digital Smart City HAMAMATSU

市民、企業・大学等、行政が役割を持ち、それぞれが主体的に参加する創発性の高いエコシステム<sup>(\*)</sup>を形成。エコシステムの活動を通じて、地域課題解決・地域活性化に資するサービスやソリューション<sup>(\*)</sup>を生み出していきます。

持続可能なまちづくりの主役として市民自らが役割を担い、企業や行政と共に新たな取組を考え、その担い手となっていく。

エコシステムに積極的に参加して他社や市民との共創により新たな取組を創出。自社事業として持続的に運営を担う。



共助・共創のコーディネータ役。企業や市民が参加するエコシステムを運営し、新たな取組の創出を支援する。

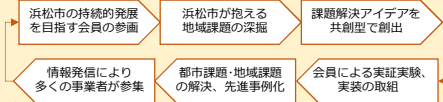
### 「浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム」を中核とした、エコシステムの形成



「浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム」は、モビリティサービスの観点から浜松市の持続可能な発展を目指して、令和2年4月に設立。官民が連携し、これからの浜松市に必要なモビリティサービスを生み出すプロジェクトを支援し、会員同士の意識共有や新たな繋がりを創出しています。「浜松市デリバリープラットフォーム」や「浜松テレワークパーク構想」など、様々なプロジェクトが立ち上がり、創発性の高いエコシステムを形成しています。

### 浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム

浜松市の新しいモビリティサービスを考えるアイデアソン<sup>(\*)</sup>など、会員主導のプロジェクト創出支援を実施。



※市内のプロジェクト例

#### 浜松市デリバリープラットフォーム

コロナ禍で影響を受けた飲食店を支援するために、官民が連携して、飲食店・消費者・宅配事業者などをオンラインで結ぶデリバリープラットフォームを形成。



#### 浜松テレワークパーク構想

車や駐車場を活用することでより良いテレワーク<sup>(\*)</sup>環境をつくり、浜松市を挙げてテレワークを促進するための官民連携の構想。

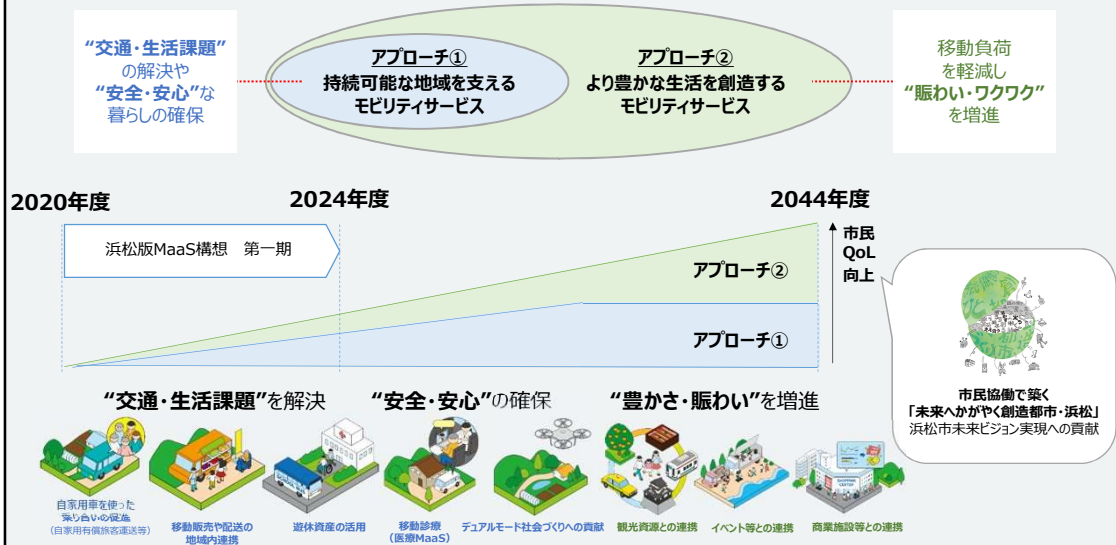


## VIII. ロードマップ

13

Digital Smart City HAMAMATSU

2020年度から2024年度の5年間で浜松版MaaS構想の第一期と位置付け、交通・生活課題の解決から着手して、モビリティとサービスの連携やデータ活用へと徐々に拡大。中期的に、“安全・安心”の確保や“豊かさ・賑わい”の増進を図り、市民QOL向上、「浜松市未来ビジョン」の実現を目指します。



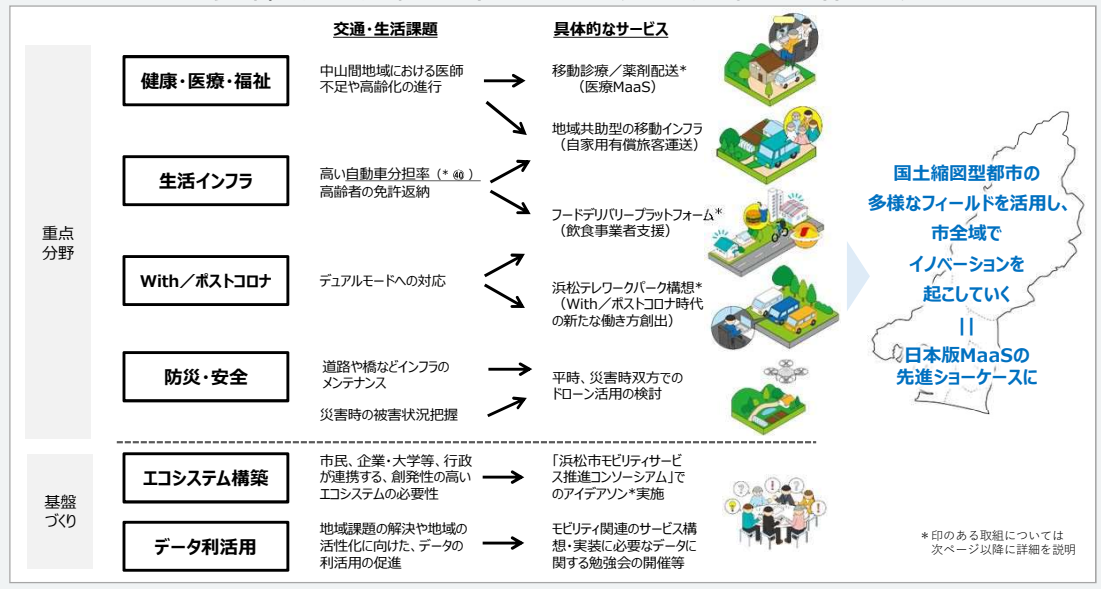
## IX. 第一期（2020年度～2024年度）の取り組みイメージ

14

Digital Smart City HAMAMATSU

構想第一期は、官民連携による創発性の高いエコシステムづくりや、データ活用に関する研究等、MaaS構想の基盤づくりに取り組むとともに、重点分野として「健康・医療・福祉」「生活インフラ」「with/ポストコロナ」「防災・安全」を設定し、国土縮図型都市である浜松市の多様なフィールドを活用して、本市全域でイノベーションを推進。

これらの取組を通じて、浜松市が日本版MaaSを先導するエリアとなることを目指します。



## IX-1. 動き始めている取り組み例

15

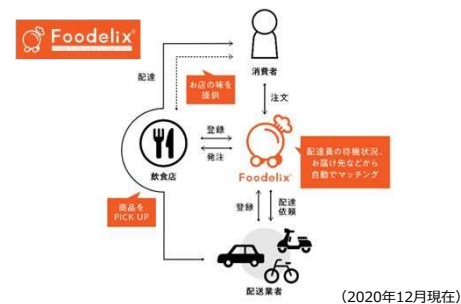
Digital Smart City HAMAMATSU

### フードデリバリープラットフォーム

#### 浜松市の地域特性に合わせた新しいデリバリー&テイクアウトプラットフォーム「Foodelix」の構築。

コロナ禍でテイクアウトニーズが増える一方、決済・配送エリアも異なる事業者単位でサービスを行っている為、利用者としては使いづらいという課題と、デリバリーサービスを利用したい事業者のノウハウ不足という課題を解決する為に、注文・決済・配送までの一元的に管理できるデリバリー&テイクアウトプラットフォームを構築。

(株)こころ、(株)日本シャルフ、(株)サンソフト、浜松市 4 者で立ち上げ、2020年10月から運用を開始しています。



### 春野医療MaaSプロジェクト

#### 医療資源の乏しい中山間地域で、「医療を届ける」モデルの構築に向けた実証実験を天竜区春野町で実施。

天竜区は、高齢化が進行し、マイカー依存度が高く、今後、高齢者が免許返納等により自家用車での移動が困難になることが懸念されます。地域交通等の衰退による通院困難、地域の医療課題（医師不足等）により、将来適切な医療サービスの継続が困難になる可能性があるため、中山間地域において通院困難な高齢者に「医療を届ける」モデルの構築を目指す実証実験を実施。

実証実験では、移動診療車を用いたオンライン診療を行い、オンライン診療を受診した患者に対して医師や薬剤師と連携してオンラインでの服薬指導やドローンなどを使った薬剤配送も行います。実験を通じて、それらの運用上の課題を検証していきます。



(2020年12月現在)

## 浜松テレワークパーク構想

**駐車場をコワーキングスペース<sup>(※④)</sup>として活用する事で浜松ならではの新たな働き方を提案。**

コロナ禍で企業に求められたテレワークへの取り組みによって起きた「仕事ができる個室の確保」等の課題を解決するために、駐車場をコワーキングスペースとして活用する事で新たな働き方を提案する「浜松テレワークパーク実現委員会」を、We will Accounting Associates(株)、スズキ(株)、(株)東海理化、浜松市の4者で設立。

多拠点居住や関係人口拡大に貢献するサービスとして、2021年4月度以降の事業化を目指し、2020年11月より移動オフィスとコワーキングスペースの実証実験を開始しました。



(2020年12月現在)

## アイデアソン

**新しいサービスのアイデア創出に向けて、「モビリティコンソーシアム参加企業同士での「意識共有」、「関係構築」、「価値創造」を促進する事を目的とした、企業共創型サービス創発プログラムを実施。**

浜松市の課題視点で、それぞれの参加企業がサービスを創造していく事をサポートできる様に、MaaS、スマートシティ最新事例のインプット、浜松市の課題の深堀、共創型のサービスアイデア発想等のプログラムを用意。初年度は10社が発表を行い、浜松市長始め、コンソーシアム幹事企業からの講評など、各アイデアのサービス具体化に向けたサポートに貢献する施策となりました。

今後も本プログラムを定期的に実施していきながら、浜松市民の生活の質を向上させる新しいモビリティサービスアイデア創出とプロジェクト具現化のきっかけの場として推進していく予定です。



(2020年12月現在)

1. MaaS	「Mobility as a Service」の略。複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービス。観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となる
2. モビリティ	乗り物等、人の移動に関わることやモノ
3. デジタルファースト宣言	令和元年10月31日に発出。「データ活用や地域課題解決を通じたイノベーションの活性化」「デジタル化による生産性向上」「デジタル技術やデータの活用による市民生活の快適化」を目指すために「都市づくり」「市民サービス」「自治体運営」にデジタルファーストで取り組むことを宣言
4. デジタル・スマートシティ	「デジタルファースト宣言」の3つの戦略分野の1つである「都市づくり」における政策。データや先端技術を最大限に活かし、産業の活性化やインフラの効率的な維持管理など都市機能の高度化を目指す
5. 市民QOL	QOLは「Quality of Life」の略。人々の幸福感・効用など、社会のゆたかさや生活の質のこと
6. 都市の最適化	都市の抱える諸課題に対して、ICT等の新技術を活用しつつ、効果的・効率的な都市計画、都市整備、都市管理・運営を実現すること。
7. 骨太の方針	「経済財政運営と改革の基本方針」国の経済対策等の基本骨格を示したもの
8. 自家用有償旅客運送	バス、タクシー等が運行されていない過疎地域などで、登録を受けた市町村、NPO等が自家用車を用いて住民を有償で運送すること
9. 成長戦略	「投資の促進」「人材の活躍強化」「新たな市場の創出」「世界経済とのさらなる統合」の4つの視点をベースにして、規制緩和等によって、民間企業や個人が真の実力を発揮するための方策をまとめたもの。令和2年7月17日に「成長戦略実行計画」「成長戦略フォローアップ」が閣議決定された。
10. Withコロナ/ポストコロナ時代	新型コロナウイルスの流行に即した今とこれからの時代を指す
11. ニューノーマル	新型コロナウイルス感染症の流行を経て移行する人々の行動・意識・価値観の新たな常態・常識のこと
12. デュアルモード社会	経済効率を重視する「経済モード」と、国民の健康と安全とを最優先にする「安全モード」の2つのモードを新型コロナウイルス感染症の状況に応じて適宜切り替える社会。
13. プレイヤー	サービスを提供または享受する企業、団体、個人を指す
14. 総合計画	浜松市の最上位計画。30年後（1世代先）の理想の姿を示した「浜松市未来ビジョン（基本構想）」と、10年間の総合的な政策を定めた「第1次推進プラン（基本計画）」の2章で構成される。
15. イノベーション	これまでない新しいサービスや製品などを生み出すこと
16. スタートアップ・エコシステム グローバル拠点都市	内閣府が経済面や技術面など様々な支援を行うことで世界と同等に戦える日本企業の創出を目指し、全国で4地域を選定
17. スタートアップ	短期間で、イノベーションや新たなビジネスモデルの構築、新たな市場の開拓を目指す動きや企業のこと
18. シームレス	機能やサービスがよく連携していて利用者にとって快適であるということ

## X. 用語の解説 (2/3)

18

Digital Smart City HAMAMATSU

19. バンデミック	世界的大流行のこと
20. デジタルテクノロジー	情報技術のこと
21. 人流データ	いつ、どこに、どれくらい人がいるかを示すデータ
22. 医療MaaS <small>マース</small>	モビリティとデジタルの力によって、医師不足や高齢化等従来の医療課題を解決する新しい医療サービス
23. デマンド型	利用者の事前予約に応じる形で運行経路や運航スケジュールをそれに合わせて運行する公共交通のこと
24. アプリ	「アプリケーション」の略。パソコンや携帯電話上で使える様々なソフトウェアのこと
25. ビーコン	近距離でデジタル機器のデータ通信をやり取りする無線通信技術「Bluetooth」を使って、情報を発信する端末や通信方法
26. フードデリバリープラットフォーム	飲食のデリバリー、テイクアウトにおいて発注・決済から配達依頼、配達までを一元管理する仕組み
27. アクティビティ	旅行先での体を使った様々な遊びのこと
28. 多拠点居住	都市部や地方部に複数の拠点をもち、定期的に地方部でのんびり過ごしたり、仕事をしたりする新しいライフスタイルの1つ
29. サブスク	「サブスクリプションサービス」の略。一定期間の利用権を定額性で支払う方式のサービス
30. 関係人口	特定の地域と多様に関わる人々を指す言葉
31. サイネージ	表示と通信にデジタル技術を活用して平面ディスプレイやプロジェクタ等によって映像や文字情報を表示するモノ
32. リコメンド情報	プロフィールや行動履歴から興味・関心がありそうなモノ・コトを予測した情報
33. GPS <small>ジーピーエス</small>	地球上の現在位置を、人工衛星からの電波で測り知る装置
34. コネクテッド	インターネットに常時接続されたモノ
35. 移動ログ	特定のヒトやモノの移動履歴
36. エコシステム	複数の企業や団体がパートナーシップを組み、それぞれの技術や強みを生かしながら、業種・業界の垣根を越えて共存共栄する仕組み、ビジネス上の生態系
37. ソリューション	抱えている課題を解決することや、そのために提供されるシステム
38. アイデアソン	「アイデア」と「マラソン」を組み合わせた造語で、アイデアの創出を目的としたイベントを指す

## X. 用語の解説 (3/3)

19

Digital Smart City HAMAMATSU

39. テレワーク	情報通信技術（ICT=Information and Communication Technology）を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと
40. 自動車分担率	自動車、バス、鉄道、自転車、徒歩などの移動手段において、自動車がどれだけの割合で使われているかという割合を示す数値
41. コワーキングスペース	異なる職業や仕事を持った人たちが同じ場集まり、共有している作業場